

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	有限会社 レナル企画		
事業所名	グループホーム オアシス ことしば		
所在地	山口県宇部市寿町3丁目2番5号		
自己評価作成日	平成22年4月26日	評価結果市町受理日	平成22年10月28日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年5月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件に恵まれているため、外出の機会が多く、希望に沿った個別の外出援助ができる環境にあります。医療面でも、24時間体制で行えるよう医療連携の連絡体制をしっかりと確立させています。母体病院のDrの深夜の往診も必要時には行っており、安心して生活を送れる体制ができています。入居者の方々に「今日も楽しかった」と思っていただけのように、本当に心から「嬉しい」「楽しい」と感じていただき、そして入居の方々の、「生きる力」を引き出せるよう職員全員が取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

実家、働いていた職場周辺、馴染みの美容院、週1回の自宅訪問などの利用者の馴染みの関係継続の支援をしておられます。八幡様、地藏参り、バラ園、菖蒲園、図書館等へのドライブ、散歩、買い物など1日1回は外出するなど取り組まれています。日々の生活や行事をスライドにして、家族会で見て頂き、利用者、家族、職員の関係を深めておられます。地域密着型サービスの意義の理解を全職員とともに共有して、サービスの質の向上に取り組んでおられます。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『個人を尊重し、寄り添いながら、自立に向けたケアをおこない、その人らしくお過ごしいただくように支援していきます』利用者様の、状況を受け入れ穏やかに、お過ごしいただけるよう、支援しています。	「その人らしく、楽しく、ゆったりと安心して」という理念のもと、利用者が地域の中で、その人らしく暮らし続ける事が出来るよう、日々のケアやカンファレンス時に職員間で話し合い、確認をして支援している。	
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、楽しく、ゆったりと安心して」という理念のもと、今まで暮らしてこられた環境、習慣を大切にしながら「自分らしさ」を失わないケアを実践するように心がけている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長、民生委員から地域の活動の情報を得て、全館で催しに参加している。地域の清掃作業にも参加させてもらい交流している。	自治会の清掃作業に参加し、隣接の歩道の草取り、川沿いの花壇の手入れを利用者と一緒に行っている。保育園児との交流や小学生の体験学習、高校生の実習やボランティア等での交流がある。散歩時に近所の方と挨拶を交わしたり、法人の納涼祭に地域の参加があるなど地域との付き合いに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オアシスことしば全館全体で自治会の活動の情報を得よう自治会長さんや近所の方との交流をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族のみで抱えることは難しいことを説明し、相談窓口の紹介と、サービスの種類やケアマネに紹介するようにしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった場合はその都度、お話を聞き、近隣のサービスの紹介や家族の負担が軽減する方法などをお知らせするようにしている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を全員で取り組み、問われている内容の把握と、何を求めているかを知る。外部評価とは何か？を学ぶ。評価結果後、カンファレンス等で改善に向けて取り組むようにしている。	全職員で評価の意義を確認後、夜勤時に一人ずつが記載するなどして全職員で取り組み、検討後に各ユニットの管理者がまとめている。職員にとっては振り返りや見直しの機会となり、具的な改善や支援に向け取り組んでいる。	
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で取り組み、どうしたら利用者の方々の生活の質が向上するのか考え、また外部評価の結果もカンファレンス等でも確認し改善に取り組んでいる。		
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価後、評価改善項目を、運営推進会議で報告し、改善点をご家族、職員で話合っている。	定期開催で、他のグループホームの管理者、ボランティア、訪問看護ステーションの看護師などが参加し、外部評価結果の報告、利用者の状況報告、災害についての話し合い(自治会長が校区の防災マップ持参)や家族会を兼ねたりと工夫され、地域の協力が得られるように努めている。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価実施後は運営推進会議で報告し、改善点をご家族、職員で話合っている。		
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課担当者、運営推進会議出席いただく、高齢福祉課の職員の方に、何事も相談をしながら運営している。すぐにお返事がない場合は後日連絡をいただく等、協力、支援をしていただいている。	介護保険課とは利用者の暮らしぶりやニーズについて出向いたり、電話等で連携を密にし、情報交換をしている。高齢福祉課とは、運営推進会議への参加や相談等で協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当の方や高齢福祉課の運営推進会議へ来られる職員の方に相談している。回答に時間を要する場合にも後日連絡をいただき、よりよいサービスにつながるよう支援していただいている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>認知症の行動の中で、身体的危険だと判断した場合に、自室ベランダ窓の施錠を、家族に相談し施錠することがある。状態緩和した場合は、速やかに開錠している。</p>	<p>マニュアルを作成し、研修の実施などで全職員は身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。利用者が外に出たくなる理由の把握に努め、外出を察知した時には一緒に出かけたり、声かけを工夫すると共に、1日に1回は外に出かける支援に取り組んでいる。</p>	
7	(6)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の生命の安全の確保の方が優先される場合にのみ、玄関の施錠をさせていただく場合もあるが、個人の尊厳を損なうケアは行わないように取り組んでいる。</p>		
8		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修で「虐待」について学び、カンファレンス会議で「尊厳の保持」を学ぶ。虐待が起こらないように、認知症の特徴的な行動、心理症状を理解し、受容できるように、知識を高め、虐待防止ができるように努力している。</p>		
8		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修(H21.9)にて高齢者虐待について学び、高齢者の尊厳の保持の実現のためには高齢者虐待を防止することが極めて重要であるということの再認識を行った。</p>		
9		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前、利用者様の判断ができるうちに、権利擁護を利用したことあり、その際に成年後見について尋ねて説明を受けたことがある。権利擁護を使用したことで、ご本人のおかれている状態を安全に守ることができた。</p>		
9		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、成年後見制度が必要性のある方は入居されていないが、施設内研修でも昨年取り上げ学ぶ機会は持っている。</p>		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	弥生	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書の内容を十分解りやすく説明し、もたれている不安や疑問点をお聞きしている、利用者様が、安心して過ごしていけるように、家族と職員とで支えていくことを説明し理解いただいている。		
10	如月	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際に契約書、重要事項説明書に沿って時間をかけて説明をさせていただいている。途中何度か質問を受けられるような方法をとっている。		
11	(7) 弥生	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情、相談等の窓口の説明を書いた紙をお渡ししている。また、入り口には重要事項説明書、苦情相談窓口等、掲示してある。ご家族が運営推進会議に出席いただいた際に、ご意見、ご要望を聞きし意見を反映できるように役立てている。	相談、苦情体制や処理手順を定め、契約時に説明すると共に、来所時、電話、パソコン、携帯のメールなど、話しやすい雰囲気作りに努めると共に、家族会など、あらゆる機会を通じ意見や要望を聞き、反映させるよう努めている。	
11	(7) 如月	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や入り口に苦情受付窓口や相談場所などを明記している。また、運営推進会議にご家族に出席していただいた際に意見や要望を聞き、運営の改善に役立てさせていただいている。		
12	(8) 弥生	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、厨房会議、幹部会議に出席し、現場の状況や、意見を伝えている。	日々のケアの中で気づいた事やアイデアを職員が管理者に伝えると、管理者は幹部会議に提出し、取り上げてもらうことにより、行事や外出方法など独自の方法で出来るなど、意見の出しやすい体制となっている。	
12	(8) 如月	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が幹部会議に出席し、代表者へ現場の思いを伝えるようにしている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	弥生	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しており、研修参加状況、資格取得意欲なども勘案し、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13	如月	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しており、研修参加状況、資格の取得への意欲なども勘案し、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
14	(9) 弥生	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会に参加し、研修内容を持ち帰り、施設内研修に活かしている。研修で学ぶことで、職員の意識を高め、質が向上できるように、全館の職員が参加し、勉強する機会を得ている。	外部研修は勤務の一環として参加でき、ミーティング時に復命している。法人の研修(2ヶ月に1回)への参加や法人のグループホーム、小規模多機能との合同勉強会の参加等、研修を受ける機会の確保や日々の現場で共に考えながら、働きながらのトレーニングも進めている。	
14	(9) 如月	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に見合った研修の情報提供があり、勤務時間の調整も行われている。研修報告により内容の情報も共有している。		
15	弥生	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会開催の研修会、系列のグループホームとの勉強会、運営推進会議に相互に管理者が出席したりして、他の施設職員の情報やケア内容を聞き、自施設のサービスの質が向上できるように取り入れている。		
15	如月	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームと一緒に勉強会を開催したり、他のグループホームの運営推進会議に管理者が出席し、交流を図っている。グループホーム連絡協議会の勉強会にも出席し、交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16	弥生	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の何気ない会話、訴え、相談を傾聴し、本人の思いを引き出せるように、また、利用者、職員とのコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
16	如月	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気づくりをホーム全体で作成し、会話の中からご本人の思いを引き出すように心がけている。		
17	弥生	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の情報の中から、家族の不安や、困っていたことを聴き、入居後、生活環境の変化でいろいろの状況が出ることを話し、共に支えていけるような関係づくりを築けるように努めている。		
17	如月	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まる前後には連絡を密に取り、家族の思いをお聞きし、不安を少しでも解消してもらえよう努めている。		
18	弥生	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の家族、ご本人の不安や要望をお聞きし家族や本人が、何を、どう望まれているかを、話し合い、意向を伝え支援の方法を職員間で協議し対応策を出し合い支援している。		
18	如月	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どういう暮らしをしていきたいのかをお聞きし、医療面、生活面が充実するようケアマネを含めて協議し、必要なサービスを利用していけるよう準備していている。		
19	弥生	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、利用者様の出来ることを活かせるように、何もしないで過ごすことの、居心地の悪さを理解し、職員と共に支えあえる関係を築いている。		
19	如月	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、生活の知恵などのアドバイスをもらいながらお互いに支えあう関係をつくっていている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	弥生	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	利用者様の訴えや、思いを家族に伝え、職 員ではできないことは家族にお願いしてい る。受診等も、家族で受診困難な場合は職 員で、同行が必要な場合は家族と一緒に受 診の支援をしている。		
20	如月	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	利用者の方の思いをご家族に伝え、外出や 通院など、できる場所はお願ひしたり、また ご家族と一緒に職員が付き添って行く場合も ある。		
21	(10) 弥生	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人が、気楽に尋ねていただけるよ うに、馴染んだ人たちとの関係が、継続でき るように支援している。	実家、昔の職場、馴染みの美容院、拝み所、 商店等に出かけたり、自宅の様子を知るため に週1回帰宅するなど、関係が持続できるよう 支援している。	
21	(10) 如月	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に、それぞれの利用者の方々の思 い出の地などに行くようにしている。スーパー で近所の方から声をかけてもらい、喜ばれて 立ち話をされることもある。		
22	弥生	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ご利用者様のもたれている状態に応じて、互 いの関係を大切に、利用者様同士の支え合 いや、関わり合いが出来るように支援してい る		
22	如月	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者の方々の性格や個性を大切にし、お 互いに尊重しあえる関係づくりに配慮してい る。年齢や障害の状態によって利用者の方 々もお互いに助け合おうとする気持ちを持 たれていることも大切にしている。		
23	弥生	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退院後、家族からのその後の相談を 受けている。他施設に移られる場合は、ご本 人に合った場所への紹介と、その手続き、ケ アマネの紹介等で、他施設の相談員とつな ぐ支援をしている。		
23	如月	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入られた利用者の家族の方とその 後の様子をメールなどでお伺ひしたり、施設 の相談員の方との連絡をし、利用者の方へ の訪問も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の状況に合わせながら、1日の流れを決めている。楽しく過ごせる工夫をしながら、参加出来ない方には、出来ることを見つけながら過ごして頂いている。	利用者との日々の会話の中から一人ひとりの思いや希望を介護記録に記入し、共有して意向の把握に努めると共に、家族の情報や理解を得ながら、一人ひとりの支援につなげている。	
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人その人の1日の流れに沿った暮らしをしていただくよう職員が配慮して声かけなどを行っている。		
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族から情報を聞いたり、利用者様の何気ない会話により生活史を把握し、本人に対しての接し方を考え、対応策として活かしている。		
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者ご本人からも会話の中から生活史をお聞きし、またご家族からも思い出話の中でいろいろな情報をいただくようにしている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者様の心身の状況を把握し、職員間で情報を共有しながら、利用者様が心地よく、穏やかに暮らせるように努めている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが利用者の方々の体調、心身の変化に気づける力をつけ、情報を共有することによって毎日健康に、また豊かな気持ちで暮らしていただけるよう努めている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12) 弥生	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のおかれている状況、変化について家族等に話し合い、家族の意向や希望を聞き、施設の対応や、今後について方向性を示し、介護計画を作成、見直しを行っている。	利用者、家族の意見や要望を取り入れ、月1回のカンファレンスと2ヶ月に1回の合同カンファレンスを開催し、事故報告書、介護記録、職員の意見を反映して計画を作成している。モニタリング、評価は3ヶ月に1回で、主治医の意見を仰ぎながら現状に即した見直しを行っている。	
27	(12) 如月	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	キーパーソンの方だけではなく、ご本人を支えていらっしゃる家族の方から情報をいただき、利用者の方の生活の広がりへとつなげている。		
28	弥生	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録に細かく記入し、本人の言動、動きの中から、本人の苦痛等を把握出来るように職員間で情報を得るようにしている。気づき、対応は全員で話し合い、介護計画に入れ対応している。		
28	如月	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に個々の様子、気づきなどを記入して勤務者がすぐに情報を共有できるようにしている。また、排泄や一日の気持ちの流れを把握する必要のある利用者の方の24時間シートを作成し対応している。		
29	弥生	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の、ニーズに対応するために、事業所間で話し合い、ニーズに沿った多機能にサービス出来るように支援している。家族の状況も勘案し受診介助等柔軟に支援している。		
29	如月	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画に縛られることなく利用者の方々、家族の方々の要望に対応できるよう他サービスの利用の情報なども得るように日ごろから心がけている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	弥生	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周囲に公共施設が揃っており、地域での催し物に参加している。暮らしに楽しさを感じていただけるように、地域内の草抜き等を職員と一緒にするなど力を発揮出来るように支援している。		
30	如月	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方に必要な団体の加入もしていただき、身体機能の状態の安定をご本人、職員で考え取り組んでいこうとしている。		
31	(13) 弥生	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時家族の意向を確認し、かかりつけ医の継続と、24時間中の緊急時(骨折、発熱)に自施設の医療をお願いする旨を説明している。また、症状の変化による各科受診は支援している。	事業所の協力医と希望するかかりつけ医の医療が受けられるよう支援している。受診結果に関する情報の共有や必要時には協力医の月2回の訪問診療が受診でき、安心して生活が出来るよう、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31	(13) 如月	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を継続しながら、ご家族が付き添えないときには職員が同行するようにして安心して生活を送っていただけるようにしている。必要な際は母体医院からの紹介で病院への受診も行なっている。		
32	弥生	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状況変化を看護師に報告し、助言を得て受診、また訪問看護師に状態を伝え適切な助言を求め、必要に応じて受診し個々に利用者様の健康管理に努めている。		
32	如月	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方の状況により、訪問看護へ相談するか、同施設内の看護師へ連絡するかを判断している。利用者の方の情報は定期的に記入して看護師と共有している。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	弥生	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の治療方針や、回復時期等をうかがい、家族の希望と、施設で受け入れが可能な場合は、早期に退院できるように病院関係者と話しあい、連携している。退院後は生活を通してリハビリ状態の回復に向けて支援している。		
33	如月	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2月に入院された利用者の方の面談へ行き、退院に向けて病院と調整し、3月末に戻ってこられるよう支援した。その後も週1回割合で通院に付き添い病院と連携し状態の改善に努めている。		
34	(14) 弥生	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族に状況説明し、方針について話し合いながら、なじんだ生活が継続出来るように支援している。他施設につなぐ場合も家族の意向を聞き、ケアマネや、相談員と連携し情報交換をしながら支援の方法を協議している。	入居時に本人、家族に説明して同意を得ている。状況変化に応じて家族、主治医などと話し合いながら方針の統一を図っている。医療連携体制やターミナルについての職員の共有もなされており、本人と家族の安心と納得が得られるように取り組んでいる。	
34	(14) 如月	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプランの作成時に今後の生活をお話する際、方向性を家族と相談している。施設の相談員やケアマネとも連携を図り、情報の交換も行なっている。		
35	(15) 弥生	事故病死の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生に備え、ヒヤリハット、事故報告書に記入し、何故起きたのか、どうしたら防げるかをカンファレンスや、事故が起きた時に職員間で反省と防止に向け協議し事故予防に努めている。事故予防に向けリスクマネジメントをしながら常に意識し業務に取り組むようにしている。	ヒヤリはっ・事故報告書を整理し、ミーティング時やカンファレンス時に一人ひとりの事故防止に向けて検討すると共に、危険予知トレーニング、セーフティマネージメント研修をしている。AED使用訓練、救命救急法も受講しているが、全職員の応急手当、初期対応の定期的な訓練はされておらず、実践力を身につけるには至ってはいない。	・応急手当、初期対応の定期的な訓練の実施
35	(15) 如月	事故病死の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	セーフティマネージメントの勉強会をし、危険予知トレーニングを行い、事故防止への意識を持つようにしている。実践的な訓練は職員全員には行なっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を、年2回昼夜を想定し実施し、施設内で連携で動けるように訓練している。地域の協力を仰げるように自治会長からの情報を頂きながら地域の状況、施設内の状況を共有しながら、利用者様の安全について説明している。	年2回、法人全体で昼、夜想定での避難訓練を利用者と一緒に行っている。また、消火器の使い方、避難方法の訓練もしている。運営推進会議のメンバーである自治会長より自主防災マップの提供があり、協力体制についても話し合うことになっている。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回昼夜想定にて行っている。役割分担表やチェックシートを作成し、実際に起こった際にも対応できる力を身につけられるように配慮している。自治会長さんから自主防災マップもいただいて職員がいつも確認できるようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々の個性を大切に、尊厳が損なわれないようにしている。職員全員で対応中に、気付いたことは注意して、尊厳や誇りを失わないように努めている。	一人ひとりの人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。また、法人内で尊厳、プライバシーについて研修を実施している。排泄、入浴時には利用者の気持ちを大切に支援するなど、管理者を中心に日々確認と改善に努めている。	
37	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々の個人の尊厳を大切に、尊敬と愛情を持った言葉かけを職員全員ができるように心がけている。		
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の思いや、希望を聞きながらお世話している。日常の生活で思いのまま動かれ、決定されることに沿うようにしている。		
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いい意味での自己主張をされる利用者の方が何人かいらっしゃる関係で自分たちで自己決定できる雰囲気全体に浸透してきている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	弥生	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が主であることを認識し、個々の方々のペースで生活できるように支援している。日々の状況で変更する時は、説明し納得された上で、変更させていただくこともある。		
39	如月	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「こうしたい」という要望を自分から言われる方が何人かいらっしゃるなのでその方たちだけへの支援にならないよう職員が配慮するようにはしている。		
40	弥生	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師にお願いし、本人や家族の要望を聞きながら、その人に合ったおしゃれが出来るように支援出来ている。		
40	如月	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を2箇所お願いし、きていただいている。その他にもご希望の美容室へお連れし、好きなカラーに染めてもらい、ゆっくりコーヒーを飲みながらのひと時を過ごしてもらおうような時間もつくっている。		
41	(18) 弥生	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけしながら手伝いをお願いしている。片付けも自分の仕事として、手伝いされる方もおられる。おいしく楽しんで食事が出来るように、盛り付けや彩りに気を付けている。	週3回、事業所で調理している。献立は利用者と職員と一緒に作成し、食材の買い物、盛り付け、片付け、茶碗洗い、盆拭きなど出来る力を活かすように支援している。好みの把握をしており、魚は肉、カレーの嫌いな人には肉ジャガに変更、刻み食などの対応をして、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41	(18) 如月	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー表を見て「今日は やね！楽しみやね」と言われる方も何人かいらっしゃる。準備、片付けなども自分から率先してされる方や職員からの声かけにて手伝ってくださる方など様々である。食事を楽しむ雰囲気自分たちでされているところもある。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	弥生	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分補給量を把握している。微熱、血圧上昇時は水分補給し、状態の安定に向けにつとめている。お茶のみでなく、本人に必要なとする水分を用意して摂取していただいている。		
42	如月	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、1日の水分量のチェックを行って記録し、体調の変化に留意している。摂取量の少ないときにはご本人の一番好まれるものを提供し補助食品として活用している。		
43	弥生	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの準備と声かけをしている。一人でできない方には、一つ一つの行動の声かけをし、見守りながらおこなっていただいている。		
43	如月	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きセットの準備をし、自分から磨いてもらえるようにしている。気づかれないうときには自尊心を傷つけないような声かけを行っている。		
44	(19) 弥生	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンをして頂けるように誘導している。誘導により、自力での排尿、排便もあり汚染予防に向け支援している。	排泄チェック表を作成して、一人ひとりの排泄パターンを把握して、誘導の声かけをしている。車椅子の利用者のトイレ誘導や排泄、排便の工夫をすると共に、紙パンツから布パンツの移行への支援にも取り組んでいる。	
44	(19) 如月	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を必要な方には準備し、記入して排泄パターンを掴み、誘導や声掛けを行っている。紙パンツを使用されていても失敗が少なくなると布パンツへの移行も行っている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	弥生	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認取れない方は、動きや、行動を観察しながら、便秘を疑い、野菜中心の食事と、水分補給、運動の取入れ等便秘予防に取り組んでいる。		
45	如月	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や散歩や運動の声かけをし、規則正しい生活を送っていただくような支援をしている。		
46	(20) 弥生	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	それぞれの状況に合わせて入浴支援している。活動に集中されている時を避け、タイミングを見て声かけし、入浴を進めている。拒否ある時は浴室で下着の更新と清拭をおこない清潔を保持している。	入浴の時間帯は14時から18時の間で、利用者の希望にそって、ゆっくりと入浴が楽しめるよう支援してる。また、月1回程度、隣接のデイサービスの大きな風呂で楽しんだり、シャワー浴、清拭などの対応もしている。	
46	(20) 如月	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後から4時間近く入浴時間を設け、声かけや利用者の方本人から「お風呂に入っている？」といわれた方からの誘導を行っている。夜間の入浴は今のところ支援はできていないが、希望時には温タオルをお渡しするようにしている。		
47	弥生	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の状況に合わせ、休憩時間をもうけている。昼食後、2時間程度休んでいただいているが、昼寝の習慣のない方には職員と一緒に過していただいている。		
47	如月	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方一人ひとりが生活のパターンを自分でつくられており、各自休まれるときも自室へ行かれたり、自分の安心できる場所で休憩されたりしている。支援の必要な方にはくつろげる空間を提供できるようにしている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	弥生	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居後、ご本人に処方されている薬の効能、副作用を調べご本人の服薬状況を観察しドクタ～に状態を報告、変化時には調整していただいている。処方変更があった場合は、変更表で職員間で把握し、ている。薬は職員が管理している。		
48	如月	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬箱に職員が準備をし、服薬も手渡し、確認をしている。処方の変更があった場合にも治療薬マニュアル等にて作用、副作用を確認し、副作用が出た場合など、訪問看護師や医師に報告している。		
49	(21) 弥生	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来ることや、興味あるものを把握し、活動に活かせるように、また、日々が楽しく過ごせるように支援している。散歩やドライブ、地域に出て草抜き、芋掘り等自然に親しめるように支援している。	掃除、洗濯物干し、タオルたたみ、草取り、編み物、食事の準備、梅干し作り、干し柿作りなど活躍できる場面づくりやラジオ体操、折り紙、ぬりえ、貼り絵、歌など楽しみや張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。	
49	(21) 如月	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だった方には食事づくりの中心になってもらったり、その方の得意な家事を分担してお願いしている。季節ごとに咲く花を見に出かけたり、行事ごとやお祭りなどにも参加して楽しんでもらっている。		
50	(22) 弥生	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人での外出は支援できていない。温泉、ふるさと訪問等、思いはあるが実施できていない。	四季の花見、ドライブ(近隣の公園など)、墓参り、地藏参り、図書館、散歩、買い物、自宅訪問など、家族の協力を得ながら一人ひとりのその日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援に取り組んでいる。	
50	(22) 如月	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外出は難しいが、ドライブや散歩には日常的には出かけている。お花見や山口県立図書館(年2回)へは家族の方をお願いして一緒に出かけてもらっている。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	弥生	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心できている方もおられる。ご本人が選んだ物を購入する力、自分で払うことが出来ることを大切にしている。		
51	如月	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を大切にされている利用者の方には自分で持っていていただいている。買いたい気持ちを大切に自分で買い物にも行ってもらっている。		
52	弥生	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が使用できない場合は、職員がつなぎ、お話できるよう支援している。帰宅願望時には家族と連携しご本人の状態が安定するように言葉掛けをお願いしています。		
52	如月	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われたときには職員が手伝いお話ができるようにしている。遠方にいる家族の方からの手紙が来ると驚かれるが喜ばれている。		
53	(23) 弥生	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を壁画や、飾り物で感じていただけるようにしている。エアコンの調節、乾燥予防の加湿器での室温調整も行っている。ご自分の居室前にお名前をつけ解りやすくしている。	玄関、廊下は広く明るく開放的であり、機能訓練にも適している。廊下の片隅にはソファやテーブルが置かれており、利用者同士がくつろげる居場所となっている。また、食堂の窓は大きく、公園の木々や列車の通過の様子も見え、季節の花が飾られ、料理する音や匂いも感じられ、くつろげる場となっている。	
53	(23) 如月	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、台所、居間は明るく開放的な造りになっており、利用者の方々がいつでも自由に活用できるよう職員が配慮している。四季の花を飾り季節を感じてもらい、旬の食材を使用して調理をするなどの工夫もしている。また、居室、浴室、トイレはプライバシーを守りながら安全が確保できるよう配慮している。		

グループホーム オアシスことしば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	弥生	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関に椅子を置き利用者様の憩いの場として使用されている。ホールには、リクライニングソファ〜で傾眠したりテレビを見てゆったり過ごせるように支援している。		
54	如月	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席と決まっている場所もあれば、畳のところでくつろいで座られていることもある。また、廊下にもソファ〜を設置し、そこに座られて利用者の方々が何人かでお話をされていることもある。		
55	(24) 弥生	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化を感じないように、馴染まれた物を居室内にしつらえ、ご自身の居室で居心地よく暮していける工夫をしている。	タンス、テレビ、机、こたつ、ビデオデッキ、スタンドなど家で使っていた物や、絵、本、DVDなど好みの物、思い出のある物を活かして、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55	(24) 如月	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団はこちらで用意させていただいているが、その他のものは今まで使われていたものをなるべく持ってきていただくよう家族にお願いをしている。		
56	弥生	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の状況に合わせ、出来ることが継続しておこなえるように工夫し、また支援している。		
56	如月	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや日めくりを月日が確認できるように目当たるところにかけている。トイレや居室も明示し自分で確認してホーム内を安全に移動できるようにしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム オアシスことしば

作成日：平成 22年 10月 25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	1. 応急手当・初期対応の定期的な訓練の実施ができていない。	事故発生時の対応を職員1人1人が落ち着いてできるようになる。 転倒、誤薬、離苑など、防げる事故が起きないようにする。	1. 事故報告書や事例などを通して緊急時の対応策を考える。 2. 毎月1回リスクマネジメント会議を開催し、事故予防に努める。 3. 毎月1回定期的な応急手当、初期対応の訓練を計画し実施する。 4. 職員一人ひとりが事故発生時に適切な対応ができる力を身につけられるよう各マニュアルを定期的(6ヶ月)に見直す。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。